学校教育目標
心豊かに　たくましく
生きる力　を育成する

西ノ京

京都市立西ノ京中学校
学校だより ⑩
平成 30(2018)年 1 月 5 日
校長　内田　隆寿

あけましておめでとうございます

皆様にはお健やかに新しい年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。昨年は本校の教育活動に対し，多大なるご理解，ご協力を賜り誠に有難うございました。本年が皆様にとりまして幸多き年となりますよう祈念いたします。

さて，中学校もいよいよ締めくくりの期間を迎えました。この期間は年間で最も短い期間でありますが，これまでのまとめをし，新学年・新生活に備える期間です。１年をまとめるのにふさわしい期間となるよう，日々の教育活動に取り組んでまいりますので，本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

遅くなりましたが，本年度，３年生で実施した「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりました。本調査は，国語と数学それぞれ，Ａ問題（主として『知識』に関する問題）・Ｂ問題（主として『活用』に関する問題）のテストと同時に，家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており，そこからわかる生活習慣と学力との関係など，本校生徒の状況や傾向をお伝えします。

総合結果

国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，いずれのテストにおいても，全国・京都府平均を上回っています。その中で，特に数学Ｂは相対的に高い結果が出ています。これらは，３年生が１年入学時から実施してきた学習確認プログラムの結果と重ね合わせてみても，生徒が順調に学習に取り組んできた成果であると言えます。各教科の状況や課題は次の通りです。

国語科より

Ａ問題，Ｂ問題ともに学習指導要領の各領域等すべてにおいて正答率が全国平均を上回っています。特に**Ｂ問題の「書くこと」**は約５ポイント上回っており，１年生の時から授業を大切にし，落ち着いて学習に取り組んできた成果が現れていると考えられます。

Ａ問題では，特に**「語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使う（「急がば回れ」を選択する）」「楷書と行書との違いを理解する（「行書」の適切な説明を選択する）」「古典の作品の種類を知る（「徒然草」の適切な作品の種類を選択する）」問題**について，正答率が全国より１０ポイント以上上回っています。一方で，**「文脈に即して漢字を正しく書く（「規模」「延期」「営む」の漢字を書く）」問題**の無解答率が高く，小学校で学習した漢字をもう一度復習しておく必要があります。

Ｂ問題では，特に**「必要な情報を集めるための見通しをもつ（アンケートをとる対象や質問内容等を記述式で答える）」問題**について，正答率が全国より１０ポイント以上上回っています。また，**「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」「事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話す」など，「話す・聞く」能力を問う問題**でも正答率が高く，言語活動の充実を図る学習が成果につながっていると考えられます。しかし，**「登場人物の言動や描写に注意して読み，内容を理解する」問題**では，正答率が全国より下回る結果が見られます。家庭学習や授業の中で教科書の音読や，新聞を読んだり，読書に親しんだりするなどして，読む能力を高めるための課題にしっかり取り組むようにしましょう。

数学科より

Ａ問題，Ｂ問題ともに学習指導要領の各領域すべてにおいて正答率が全国平均を上回っています。特に**Ａ問題の「図形」，「関数」に関する領域，Ｂ問題の「数と式」，「図形」，「資料の活用」に関する領域**で全国よりも約５ポイント上回っています。

問題ごとに見ると，Ａ問題の**問５（１）【空間における直線と平面の平行について理解しているか（短答）】**，同じく**問１１（２）【与えられた一次関数の表において，変化の割合の意味を理解しているか（選択）】**，Ｂ問題の**問４（３）【証明した事柄を用いて，新たな性質を見出すことができるか（選択）】**，同じく**問５（３）【資料の傾向を的確に捉え，理由を数学的な表現を用いて説明することが出来るか（記述）】**の問題で，正答率が全国平均を１０ポイント以上上回っています。

しかし，Ａ問題の**問１４（１）【範囲の意味を理解している（短答）】**では全国平均を１０ポイント以上下回っています。さらに，この問題と**問９【関数の意味を理解しているか（短答）】**は，正答率そのものが，それぞれ約１５ポイント・約２０ポイントと他の問題に比べかなり低くなっています。この問題はともに知識・理解に関する問題であることから，授業での定着に課題があると考えられます。特に「資料の活用」に関する領域で使う用語の意味や内容はしっかりと理解しておきましょう。

生活質問紙調査より

「（４）ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがありますか」【達成感】「（５）難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか」【挑戦心】「（１０）将来の夢や目標を持っていますか」【将来展望】の項目は，全国平均・京都府平均を下回っており，特に（１０）は１０ポイント近くの差があります。一方で，**「（６）**

自分には，よいところがあると思いますか」【自己肯定感】は，それぞれの平均を上回っています。特にこの項目は，全国より京都府の方が下回っているにもかかわらず，本校は逆に全国を上回っているという特徴的な項目です。このことは，**「（４０）先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」**の項目が同じ傾向を示しており，連動していることが考えられます。自分が受け入れられているという安心感は，チャレンジ精神を高め，仮に成功しなかったとしてもチャレンジしたことに意味を感じ，次のステップにつながっていくものです。このことから，様々な活動において適切な目標をもたせるとともに，その目標に向かって，学校や学級が生徒にとって今以上に安心して活躍できる場となっていく必要があります。

「（５１）学校の規則を守っていますか」「（５２）友達との約束を守っていますか」「（５３）人が困っているときは，進んで助けますか」「（５４）いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「（５５）人の役に立つ人間になりたいと思いますか」【規範意識】の項目は，（５１）（５２）（５４）が全国・京都府とほぼ同等なのに対して，（５３）（５５）は下回っています。しかし，日常の生徒たちの様子を見ているとけっしてそんなことはなく，意識も高く，感心するような行いを目にすることも多々あります。生徒たちはこの項目に対してより高い理想像を思い描き，今の自分と比較しているようです。いずれにせよ，これからの社会を支えていくひとりとして，自分の考えや学びを学校や地域社会で役立てていこうとする実践力を高めていく必要があります。

「（７）友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」「（８）友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」「（９）友達と話し合うとき，友達の考えを受け止めて，自分の考えを持つことができますか」「（６８）４００字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」「（６９）学校の授業などで，自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思いますか」「（７０）生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか」【言語活動】の項目は，（８）（９）（７０）が全国・京都府を上回っており，話し合うことで自分の考えを持ち，深め広げることができるという言語活動の効果を実感しているようです。また，特に（６８）（６９）は全国・京都府と１０ポイント以上の差で難しさを感じている生徒の割合が少ない結果が出ています。一方で（７）は下回っており，「難しくはないが，得意ではない」という結果からみると，実際に感想が持てるほどの機会や経験がまだまだ少ないのではないかと考えられます。学校では，教科の授業だけでなく，学級活動など日常の学校生活全般において言語活動の充実に取り組んでいます。言語活動は，習得した知識や技能を活用した思考力・判断力・表現力を育み，より深い学びへと発展させます。また，自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり，折り合いをつけながら合意形成を図ることは，人と人とのつながりが深まり，信頼関係を築くことになります。このことから，今後も学校全体で様々な言語活動を工夫し，有機的に組み合わせて充実を図る必要があります。

「（１４）普段（月～金曜日），１日あたりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか」の項目では，約４０％の生徒が１日２時間以上は携帯やスマホをさわっていると答えています。これは，全国・京都府を上回っています。この数字はゲームをする時間は除いたものですので，それも加えると使用時間はさらに増えると考えられます。**「（１６）土曜日や日曜日など学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか」**の項目では，約５０％の生徒が１時間以下，あるいは全くしないと答えています。また，**「（１７）学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか」**の項目では，約７５％の生徒が行っていると答えており，ともに全国・京都府を上回っています。さらに，**「（３３）家で，学校の授業の予習をしていますか」**の項目では，「どちらかといえば」を含めて「している」と答えた生徒は約２０％，**「（３４）家で，学校の授業の復習をしていますか」**は，約４０％にとどまっており，これは全国・京都府を大きく下回っています。自学自習の習慣や主体的に学習に向かう態度は将来にわたって必要です。このことから，学校で「わかる授業」を目指して工夫改善していくことはもちろんのこと，家庭学習のあり方についても改めて生徒に考えさせていくよう取り組んでいく必要があります。

全体を通した本校の成果と課題

本校では，「心豊かに　たくましく　生きる力を育成する」という学校教育目標のもと，学力向上に取り組んでいます。

全体を通して，この調査の無答率は全国・京都府平均より低く，３年生は最後まであきらめず答えを導きだそうと努力しており，学習に対して前向きに取り組み，着実に力をつけていることがわかります。また，基本的生活習慣も概ね身に付いており，順調な学校生活を送っています。

課題としては，「家庭学習・自学自習」「読書習慣」「将来展望」「社会貢献の意識」などがあげられます。本校では，これらの課題解決のために，家庭や地域と連携を深めながら，生徒が日々の積み重ねを大切にし，周りと協力して何かを成し遂げることに価値を見出し，互いに切磋琢磨して力を伸ばしていけるように働きかけていきます。

保護者の皆様へ

全国調査は，子ども達の学習状況を知り，子ども達の可能性を更に伸ばし，課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく，望ましい生活習慣や日々の学習習慣の定着がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると，学力は着実に伸びており，ご家庭でのお子達に対する積極的な関わりが成果となって表れています。引き続き，子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。